

新詳地理探究

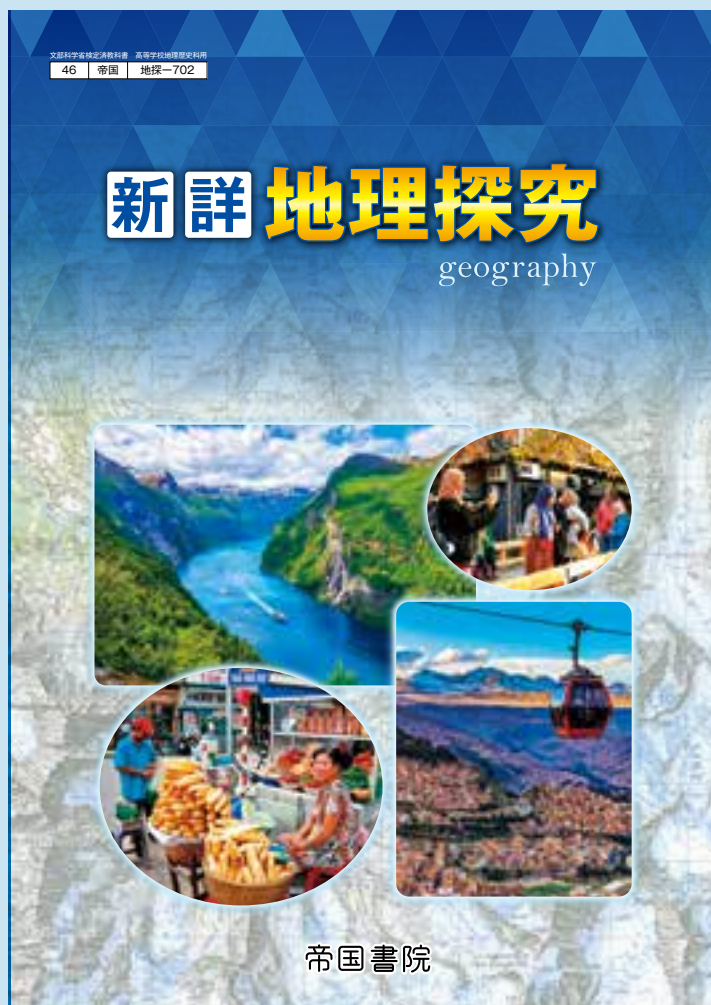
内容解説資料

部分サンプル

地探-702

指導資料・関連教材 カタログ

- 指導資料Webサポートコンテンツ付 p.2
- 教科書準拠ノート p.8
- デジタル準拠ノート p.10



 帝国書院

*本冊子に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。

(1) 指導資料

内容をCheck!

◆単元ごとに構成しています。前半には授業展開例として、板書事項などを示した「指導内容の整理(板書例)」「地図帳活用例」などを記載、後半には「図版・写真解説」や「本文解説」を記載しています。

↓教科書 p.128-129 に対応したページの例

教科書 p.128 ~ 129

第1部第2章5節 工業

4 現代世界の工業の現状と課題
(1) 繊維工業

学習のポイント 繊維工業が盛んな地域とその理由、アパレル産業で進む国際分業のしくみを理解し、アジア諸国とヨーロッパ諸国の繊維工業の違いについて考える。

学習課題 図1の衣類の輸出額が多い国・地域で、繊維工業が盛んな理由は何だろうか。また、アジア諸国とヨーロッパ諸国の繊維工業の違いは何だろうか。

指導内容の整理(板書例)

- **新興国・発展途上で盛んな繊維工業**
 - ▶ **繊維工業**：綿花、羊毛、ナイロンなどの繊維原料を加工する工業
 - … **紡績**(糸をつむぐ)、**織物**(糸を織って布をつくる)、**縫製**(布から衣服などをつくる)
 - … **アパレル産業**：衣服の生産と流通を併せた産業の名称
 - ・古くから世界各地で、**天然繊維**を原料とする繊維工業が営まれてきた
 - ・20世紀 **化学繊維**(ナイロンやポリエステルなど)の発明 … 化学繊維の割合が高まる
 - ・近年 新たな繊維の開発も進む (例)炭素繊維(航空機の部品、耐震補強)
 - ▶ **労働力指向型の工業**：人件費が安く、多くの労働者を確保できる地域に立地
 - ・1980年代～ 先進国から発展途上国への生産拠点の移動 中国は世界最大の繊維工業国に成長
 - ・近年 中国より人件費が安いベトナム、ミャンマーなどへ、次々と生産拠点が移転
- **アパレル産業で進む国際分業**
 - ▶ **消費地と生産地の相違**：市場は先進国、生産は発展途上国
 - ・アパレル産業の**国際分業**の発達と密接な関わり
 - ・先進国のアパレルメーカー：**ファブレス企業**(製造施設を自社で保有しない)
 - … 企画・開発や販売などに特化、生産自体は他社に委託するビジネスモデル
 - ・生産を委託された企業：多くは自社ブランドをもたず、縫製などの生産機能に特化
 - … 価格・品質・納期などで競合 売り上げはアパレルメーカーからの加工費に依存 人件費の安い国・地域で契約工場を置くことが競争上優位 (例)バングラデシュ
- **ヨーロッパの高級ブランド**
 - ▶ **ヨーロッパのアパレル産業**：付加価値の高い**ブランド**品に特化(職人の高い技術により生産)
 - ・顧客の個別注文に応えることで成立 → 後に高級既製服への展開によって発展
 - ・全般に高価格 → 名声や知名度、信頼に価値の源泉
 - ・バッグや靴などの皮革製品、各種装飾品や宝飾品まで扱うブランド
 - … 世界のファッション産業をけん引
 - パリ、ミラノなど、歴史あるブランドや新興ブランドの本拠が数多く立地
 - 近年、EUに加盟した東ヨーロッパに生産工場を置くブランドも出現

地図帳活用例 1) 図p.20 [Focus] 2) で、中国の輸出品・輸入品やその変化から衣類と繊維の傾向を読み取る。
2) 図p.33~34 ①で、インドやバングラデシュ、パキスタンで繊維工業が盛んな都市を探す。

確認(解答例) アジア諸国では、賃金水準の低さを生かした先進国のファブレス企業の委託生産が多く、ヨーロッパ諸国では、職人の高い技術によって生産される付加価値の高いブランド品に特化している。

図版・写真解説

▶ p.128 図1 「総輸出額に占める繊維製品の割合と主な国・地域の衣類の輸出入」/ 図2 「主な繊維製品の生産国」

先進国では繊維の生産は減少しているが、世界全体で見れば成長産業であり、中国やインドを中心に生産は拡大している。繊維原料には綿花や絹、羊毛のような天然繊維と、石油を原料とする化学繊維(合成繊維)がある。こうした繊維原料を糸の状態に加工する工業が紡績業である。綿紡績所では綿花を機械でつむいで綿糸が製造される。2020年の綿花の生産は中国、インド、アメリカ合衆国の順であるが、中国は世界最大の綿花輸入国でもあり、綿糸の生産量は世界の7割を超える。アメリカ合衆国とインドは、それぞれ世界第1位と第2位の綿花輸出国であるため、綿花の生産量と比べると綿糸の生産量は相対的に小さい。綿織物は綿糸を原料とする織物・布地全般を指し、織機を用いて製造される。生産上位国は綿糸と同じ順位であるが、中国の割合が低下している。

化学繊維の生産は中国が約7割を占めており、綿糸と並んで世界生産の中心である。中国は繊維工業の川上部門である紡績・紡織のみならず、川中部門の衣服生産においても世界最大の規模をもっている。そこで生産された衣服は、アメリカ合衆国、日本、EUなど、世界各地に輸出されている。

▶ p.129 図3 「ファブレス企業のしくみ」

ファブレス企業は製造を他社に委託していることから、通常ならば製造メーカーが抱える工場建設などのばく大な初期費用が不要となる。そして、その企業は販売促進や商品流通などの業務に集中できるため、市場のニーズや変化などに対応しやすいといった長所がある。その一方で、製造を委託しているため、生産に関わる技術の維持・継承は難しくなる、国外に製造を委託した場合は国内の産業が空洞化するなどの短所もある。現在、ファブレス企業はApple社や任天堂など国内外のさまざまな分野で見られ、半導体や電気・電子だけでなく、飲料、衣類、インテリアなどの分野においてもファブレス化が進んでいる。なお、ファブレス企業から委託されて半導体デバイスなどの製造を専門に行う企業は、ファウンドリ企業とよばれている。

▶ p.129 図4 「バングラデシュの縫製工場」/ 図5 「アジアの主な都市における日本の進出企業(製造業)の賃金水準」

衣類・繊維産業は技術的な水準が比較的低く、労働集約的な産業であるため、低賃金で多くの労働力が求められる。バングラデシュの人口は1億6822万(2020年)で、日本と同じような規模を有しているが、

1人あたりのGNIを比較すると、日本が4万540ドルであるのに対して、バングラデシュは2010ドル(2020年)である。このような賃金水準の差を生かし、安価に調達可能な労働力を背景とした、衣類・繊維産業がバングラデシュの主要産業となっている。その結果、輸出に占める衣類や繊維品の割合は約8割(2017年)となっている。近年はファスナーメーカーのYKKや、ユニクロを展開するファーストリテイリングなどの日本企業の進出も続いている。

▶ p.129 図6 「ブランド品のバッグの製造」

イタリアでは、「第3のイタリア」(→図p.340)とよばれる地域を中心に、熟練した技術をもつ職人によって高級バッグがつけられている。生産工程の合理化によって安価な製品が大量に製造される昨今、バッグをはじめとする高級な皮革製品は、依然として高い技術をもった職人の手によって製造されており、ヨーロッパでつちかわれてきた伝統技術をみることができ。こうした製品をつくる中小企業や職人の間には緊密なネットワークがあり、市場の動向に敏感に対応しながら、付加価値の高い製品を生産している。同様のネットワークは、繊維、家具、楽器などを製造する企業間にもみられる。

本文解説

▶ **繊維工業(p.128・1行目)**

繊維工業は、動物や植物に由来する天然繊維や化学的プロセスを経て製造される化学繊維を原料として糸や織物を生産し、またそれらを加工して衣類などを製造する工業である。綿花と羊毛、絹が天然繊維を代表する。綿花は古くから繊維原料として用いられており、18世紀のイギリスでインド産綿花を用いた紡績業の興隆が産業革命を引き起こしたことで知られる。

羊毛は、綿花が流入する以前のヨーロッパでは一般的な繊維原料であり、フランドル地方やヨークシャー地方で羊毛工業が盛んであった。しかし、綿工業のように機械化が進まなかったこともあり、徐々に綿織物に市場を奪われていった。

絹は養蚕により獲得される繊維であり、生糸や絹織物に加工される。歴史的には中国が生産の中心であり、ヨーロッパ諸国との間では重要な交易品となった。日本でも明治時代に殖産興業の一環として生産が拡大し、生糸の生産は一時期世界最大となった。

一方、化学繊維の原料は石油である。ナイロンやポリエステル、アクリルが化学繊維の代表である。1950年代にポリエステルを使った衣類が広まって以降、繊維生産に占める化学繊維の割合が増加している。

(2) 指導書 Web サポートコンテンツ

① 授業スライド

内容を Check!

◆ オリジナル教材の作成にも便利な PowerPoint ファイルと Google スライド版をご利用いただけます。

◆ 色覚に特性のある生徒に配慮した白黒反転版も収録しています。

↓ 教科書 p.256-257 に対応した授業スライドの例 (一部分を抜粋)

教科書 p.256~257

1 急速な経済成長を支えた産業の発展

第2部 現代世界の地誌的考察
第2章 現代世界の諸地域
4節 インド
— 経済成長に関連づけて考察

学習課題

Q インドはなぜ、急速な経済成長を続けているのだろうか。

<学習のポイント>

- (1) インドの工業の発展を、経済の自由化という側面から考察する。
- (2) 近年、インドのICT産業が成長している背景を考察する。

自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
 - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源を自給自足型の工業発展を推進
 - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
 - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

急成長した自動車産業 1

2000年代 〔② 自動車産業〕が盛んに自動車産業の集積地
… デリーやマハラーシュトラ州西部、ベンガルール、チェンナイなど
→ 都市郊外の工業団地には国内企業のほか、外国資本の自動車の組み立て・部品工場などが進出

- インドの巨大市場
 - … 人口が多く、巨大な市場を抱える
 - 自動車の多くは国内販売
 - 近年、メキシコやアフリカ諸国などへの輸出も増加

急成長した自動車産業 2

256_02_インドの鉄工業

急成長した自動車産業 3

256_03_インドにおける自動車の生産台数の推移と乗用車販売台数の内訳

確認

Q インドの経済成長をけん引するICT産業は、どのような要因があって成長を遂げたのか、説明しよう。

↓ 白黒反転版の例

自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
 - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源を自給自足型の工業発展を推進
 - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
 - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

(2) 指導書 Web サポートコンテンツ

② 授業プリント

内容を Check!

◆ オリジナル教材の作成にも便利な Word ファイルです。

◆ 授業スライド (本冊子 p.6) の付せん部分の重要用語を、穴埋めにした授業用プリントです。

↓ 教科書 p.256-257 に対応した授業プリントの例 (教師用解答)

年 組 番/名前

第2部 第2章 現代世界の諸地域 4節 インド — 経済成長に関連づけて考察	教科書	年 月 日
1 急速な経済成長を支えた産業の発展	p.256~257	

□ 学習課題

Q: インドはなぜ、急速な経済成長を続けているのだろうか。

<学習のポイント>

- (1) インドの工業の発展を、経済の自由化という側面から考察する。
- (2) 近年、インドのICT産業が成長している背景を考察する。

● 自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
 - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源を用いて自給自足型の工業発展を推進
 - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
 - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

● 急成長した自動車産業

2000年代 〔② 自動車産業〕が盛んに自動車産業の集積地
… デリーやマハラーシュトラ州西部、ベンガルール、チェンナイなど
→ 都市郊外の工業団地には国内企業のほか、外国資本の自動車の組み立て・部品工場などが進出

- インドの巨大市場
 - … 人口が多く、巨大な市場を抱える
 - 自動車の多くは国内販売
 - 近年、メキシコやアフリカ諸国などへの輸出も増加

人材が多い
トウェアの開発に携わる

使って即座に対応

ジーパークを整備

い仕事
ばれる人々の出現
という経済成長の回路が出現

る

因があって成長を遂げたのか、説明しよう。

〔①〕 経済統制を緩和し、工業の自立・活動が自由となり、100%外国資本による事業を可能としたこと
や、もともと数学やコンピュータ技術の教育に力を入れていたこと、英語に堪能な人が多かったことを
生かして、ICT産業が急速に進展した。

.....

.....

.....

新詳地理探究 演習ノート

定価：730円（本体664円＋税） ※定価が変わりました。
 品番：33589 判型：B5判 ページ数：154ページ
 内容：教科書に完全準拠した構成で授業をサポートします。
 デジタル版もご用意しております。（→本冊子 p.10-11）

※ご採用校には、教師用赤刷り解答・解説を
 進呈いたします。
 ※『新詳地理探究 指導資料 Web サポート
 コンテンツ付』をご購入いただくと、指導書
 Web サポートで準拠ノートの Word ファ
 イルをダウンロードいただけます。

↓教科書 p.98-100 に対応したページ（教師用赤刷り解答・解説）

2 節 食料問題

要点整理

- ① 飢食
- ② 飢餓
- ③ 人口
- ④ 食品ロス
- ⑤ 食料自給率
- ⑥ フードマイレージ
- ⑦ フェアトレード
- ⑧ 食育
- ⑨ 地産地消

1. 世界の食料問題

◆食料分配の不均衡

・世界全体では食料の分配に偏りがあり、先進国では [①] になっている地域がある一方、発展途上国では栄養不足や [②] に苦しむ地域がある。

◆発展途上国でみられる飢餓／◆先進国でみられる飽食

・食料の増産を上回るスピードでの [③] の増加や、干ばつや洪水、紛争や内戦などの影響で食料不足になる。→特にアフリカで深刻。
 ・ [④] …本来食べられるのに廃棄されてしまう食品。

2. 日本の食料問題

◆食料自給率の低下

・ [⑤] …国内で消費される食料のうち、国内で生産される食料が占める比率。
 →食生活の多様化や国内生産量の減少を背景に日本の [⑤] は低下し、世界有数の食料輸入国となっている。

◆食料の輸入大国としての責任

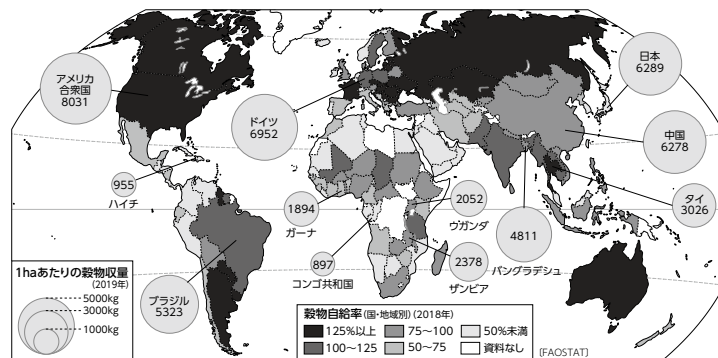
・ [⑥] …食料の輸入量に輸送距離をかけた指標。
 →生産・輸送に伴う資源消費と環境負荷に目を向ける。
 ・ [⑦] …発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する貿易。
 →発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を支援する。
 ・国内では、食に関する知識や食を選択する力を習得する [⑧] や、地元で生産された農産物を地元で消費する [⑨] が促進されている。

農業の生産性が高く1haあたりの穀物収量が多い先進国には、アメリカ合衆国のような大規模な企業の農業により大量の穀物を生産する国がある。一方、日本のように食生活の多様化などにより輸入農産物への依存度が高くなっている国もある。そのため、1haあたりの穀物収量の多さが、必ずしも穀物自給率の高さにつながるとはいえない。

作業

右下の図は、世界の穀物自給率と1haあたりの穀物収量を表している。穀物自給率と穀物収量の関係について述べた①～③の文のうち、正しいものを選びなさい。

- ① 1haあたりの穀物収量が多い国は、自給率も高い。
- ② 自給率が100%未満の国は1haあたりの穀物収量も少ない。
- ③ 1haあたりの穀物収量の多さと、自給率の高さは必ずしも関連していない。

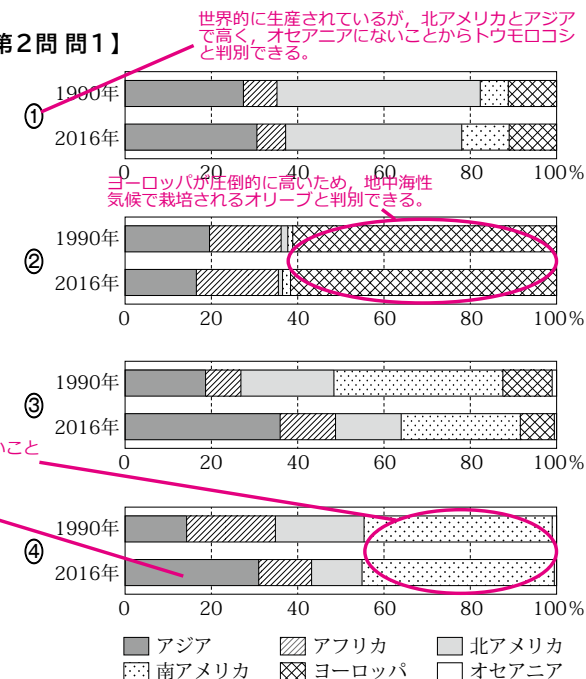


入試問題の読解テクニック - 農林水産業 -



第1問【2019年度 センター試験 地理B 本試 第2問 問1】

次の図は、いくつかの農作物について、1990年と2016年の世界における生産量の割合を地域別に示したものであり、①～④は、オリーブ、オレンジ類、コーヒー、トウモロコシのいずれかである。コーヒーに該当するものを、図中の①～④のうちから一つ選べ。



世界的に生産されているが、北アメリカとアジアで高く、オセアニアにないことからトウモロコシと判別できる。
 ヨーロッパが圧倒的に高いため、地中海性気候で栽培されるオリーブと判別できる。
 南アメリカで高く、ヨーロッパがないことから、コーヒーと判別できる。
 アジアで割合が高くなっているのは、ベトナムのコーヒー生産が増加したことによる。
 北アメリカには、メキシコからパナマまでの諸国およびカリブ海諸国が含まれる。
 FAOSTATにより作成。

④

★ 解答のポイント ★

コーヒーは、雨季と乾季が明瞭で比較的高温の地域を好み、北回歸線と南回歸線の間のコーヒーベルトで栽培されることが多い。この知識だけで北アメリカやヨーロッパの割合が高い①と②は除かれる。残った③と④を見ると、④がヨーロッパではほとんど生産されていないことから、これがコーヒーであることが分かる。よって、正答は④である。

★ 読解テクニック ★

この問題における必要最低限の知識は、トウモロコシ＝アメリカ合衆国と中国、オリーブ＝地中海地域、コーヒーベルト＝低緯度地域、の三つである。これを踏まえると、選択肢のなかで北アメリカとアジアの占める割合が高い①がトウモロコシ、ヨーロッパの割合が最も高い②がオリーブであることはすぐに判別できる。③と④で迷うが、コーヒーは低緯度地域でしか栽培されないことから、ヨーロッパで栽培されているとは考えにくい。よって、ヨーロッパの割合が非常に低い④がコーヒーだと判別できる。代表的な農作物については、教科書 p.86 や p.90～91、巻末 2～3 などを用いて、栽培地域や栽培条件を押さえておきたい。また、グラフを見る前に、それぞれの農作物の特徴や主な生産国をイメージすると、正答を導きやすくなる。なお、この問題のなかの「オレンジ類」の生産国は、教科書などではあまり見かけないうえに、かんきつ類＝地中海地域というイメージがあるかもしれないが、2019年現在の生産国第1位は中国（26.4%）で、次いでブラジル（15.8%）である。生産地のイメージが先行する農作物は、オレンジ類のほかにぶどうやバナナがあるが、ぶどうは生産国第1位は中国で、バナナの生産国第1位はインドである（いずれも2019年）。このようなこともあるので、ふだんから統計資料を見ておくことも忘れないでおきたい。

令和5(2023)年度以降用 新課程用教科書のご案内

教科書の内容、指導資料、関連教材、
シラバス作成用資料等、
新課程教科書に関する
あらゆる情報を掲載！



高等学校新課程情報サイト▲

地図 -702

新詳高等地図

新しくて、詳しい！
高等学校地図帳の
決定版



AB判 194ページ

地図 -703

標準高等地図

見やすく、
使いやすい！
大判地図帳



A4判 172ページ

地総 -703

高等学校 新地理総合

暮らしが見える！
“今”がわかる！
技能が身に付く！
地理総合教科書の決定版



AB判 238ページ

地総 -707

高校生の地理総合

おもしろい！わかりやすい！
ためになる！
暮らしが見える教科書



AB判 234ページ

歴総 -706

明解 歴史総合

おもしろい！わかりやすい！
ためになる！
「世界史×日本史」
新しい歴史に出会える教科書



AB判 238ページ

公共 -707

高等学校 公共

社会がわかる！
課題と向き合う！未来をつくる！
社会に参画する
力を養う教科書

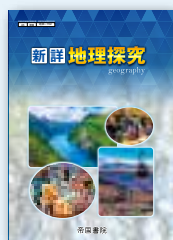


AB判 238ページ

地探 -702

新詳 地理探究

新しい、詳しい、
理解しやすい！
地理探究教科書の決定版



B5判 346ページ

世探 -703

新詳 世界史探究

通史と同時代史を
バランスよく記述！
現代世界の成り立ちが
わかりやすい教科書



B5判 366ページ